

『心臓血管外科医の「働き方」の実態に関するアンケート 2022年』の最終結果報告

日本心臓血管外科学会では「働き方改革ワーキンググループ」を組織し、2024年に実施される働き方改革への対応を検討してまいりました。昨年2022年に、2018年、2020年に引き続き、会員のみなさまを対象に、働き方改革に関する実態調査を実施させて頂きました。多くの先生方にご多忙中にもかかわらず、ご協力いただきました。この場を借りて、厚く感謝申し上げます。

前回2020年に実施した働き方改革アンケートでは、2024年に想定されるB水準（主たる勤務先と兼業で週77.5時間以下）に45%が対応できないということでしたが、今回は26%と減少し、それぞれの施設で準備が着実に進んでいることがわかりました。

また今回のアンケートでは、現時点での改善策について質問させていただきましたが、常勤医師数の増員、タスクシフティングの推進、インセンティブの付与などが浮かび上がりました。心臓血管外科領域で働く医師の働き方改革を進めていく上でその方向性を検討するための資料とさせていただきます。施設用、会員用、それぞれのアンケートの最後に別添資料として、回答いただいた先生方からいただいた問題点・改善策を掲載しております。興味深いご意見もございますので、ご一読いただければと思います。また第53回日本心臓血管外科総会での特別企画「Next Stageにおける心臓血管外科医の働き方」でご発表いただいた厚生労働省の坪井先生のご発表内容もアップしております。厚生労働省は当学会のアンケート調査の結果に大きな関心を示しています。日本心臓血管外科学会では、引き続き関連学会および厚生労働省と協力してこの問題に取り組んでいきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い致します。

日本心臓血管外科学会理事長 横山 齊
働き方改革 WG 委員長 西村 元延